



たかしまの風



学校HPも
随時更新



〈学校教育目標〉「ゆたかな**心**、たしかな**力**」の育成

令和8年熊本地震による被害

この度、令和8年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。今なお余震が続き、皆さまにおかれましては不安な日々をお過ごしのことと拝察いたします。

厳しい暑さの中、地震の影響により損なわれた生活基盤や社会インフラの確保に懸命な努力がなされてきました。発災直後より人命救助、復旧・復興支援、医療活動その他の支援に尽力されている方々を含め、全ての関係者の皆さまに、深い敬意と感謝の意を表すとともに、一日も早い復旧・復興が実現することを切に願っております。

本校も校舎内外の至るところで被害が確認されました。不具合の修繕は続いているものの、学校の機能としては本日予定どおり再開できたことに胸をなでおろしたところです。

しかし、児童生徒の心のケア、道路事情の悪化によるスクールバス運行への影響、給食センターの運用停止による応急給食の実施など、地震による影響が各方面に出ています。児童生徒、保護者の皆さまにはご不便・ご迷惑をおかけしますが、関係機関の協力を得ながら影響を最小限にとどめてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

震災により多くの子供たちが不安や緊張を抱えています。災害後は、一見落ち着いて見えても、時間の経過とともにさまざまな反応が現れることがあります。10年前の熊本地震の際にも、夜中に泣く、大人から離れられなくなる、地震ごっこをするなどの姿が見られています。お子様の生活面・学習面等で心配なことや不安なことがありましたら遠慮なく学校までお知らせください。児童生徒の心のケアについて熊本県教育委員会の資料を掲載しました。対応方法を皆さまと共有します。

学校版 震災後の児童生徒への心のケア ～学校における見守りと支援のポイント～

地震などの災害後には、子どもたちにさまざまな反応が見られます。多くは時間とともに回復しますが、学校全体で見守り、必要な支援につなぐことが大切です。

時期の目安	発災直後 0～72時間 安全の確保・安心感の提供	初期(急性期) 4日～2週間 落ち着いた回復	回復期 2週間～1か月 変化に気づき、支援開始	中長期 1～6か月 回復力(レジリエンス)の育成	長期・要支援 6か月以降 専門機関連携
声かけ例	- 安全確認 - 保護者との連絡 - 安全な環境づくり 「みんな無事でよかった」 「今は安全だから大丈夫だよ」 「困ったことがあったら教えてね」	- 朝の健康観察 - 心理教育の実施 - 学級活動の支援 「怖い、眠れないのは自然な反応だよ」 「そう感じるのは当たり前だよ」 「少しずつ落ち着いていこう」	- 児童生徒の様子を把握 - 気になる変化の早期発見 - 養護教諭・SCへつなぐ 「最近どう?眠れている?」 「学校生活で困っていることはある?」 「いつでも話を聴くよ」	- 居場所づくり・仲間づくり - 個別支援・学習支援 - 保護者との連携・支援 「よく頑張っているね」 「できたことを一緒に見つけよう」 「困ったらいつでも頼ってね」	- 症状が長期化・重症化した場合 - 医療・福祉機関と連携 - 継続的な支援 「専門の機関に相談してみよう」 「一緒にサポートしていきます」 「あなたの味方はたくさんいます」

よく見られる反応 (子どもによって様々です)	避けたい対応 (やってはいけないこと)	効果的な関わりのポイント	学齢的対応ポイント	グリーフケア (大切な人を亡くした子どもへの対応)
からだの反応 頭痛・腹痛・吐き気・疲れやすい・食欲低下 など 	無理に体験を詳しく聞き出す	- 安心・安全な環境をつくる - 子どもの話をじっくり聴く - 気持ちに寄り添い、受け止める - 子どものペースを尊重する - 小さな変化を見逃さず、認めて支える - 教職員・保護者と連携する - 回復する力を信じて見守る	小学校 安心感を重視し、遊びを活用 保護者支援を大切に 	〇 よい関わり 「会いたい気持ちは自然なことだよ」 「悲しい気持ちがあってもいいよ」 「無理に元気にならなくていいよ」
こころの反応 不安・恐怖・イライラ・悲しみ・気分の落ち込み など 	「泣かないで」「頑張って」と励ます		中学校 友人関係の確認・SNSの利用状況に配慮 自己理解・気持ちの整理 	✕ 避けたい言葉 「頑張って」「忘れよう」 「前を向いて」「元気をだして」 「みんな同じだよ」
行動の反応 落ち着きがない・登校しぶり・集中できない・攻撃的になる など 	「もう忘れよう」と言う		高校 進路や将来への不安に配慮 自己決定を支援 	
考え方の反応 悪い夢を繰り返す・自分を責める・将来に希望が持てない など 	- 子どもの感情を否定する - 早期に診断・ラベリングする			

校内支援チーム体制	支援の流れ(フロー図)	専門機関につなぐ目安	学校が大切にしたいこと
		- フラッシュバックが続く - 強い不安・恐怖が続く - 自傷行為・自殺念慮がある - 重度の不眠・食欲不振が続く - 学校生活・日常生活が困難	- 子どもの安全と安心を最優先にする - 一人で抱え込まず、チームで支援する - 保護者と連携し、家庭も支える - 子どもの回復力を信じて、長期的に見守る